

AEBS [交差点] の責任点見直し

AEBS [交差点] の責任点について

経緯

- AEBS[交差点]の責任点の導入については、2023年度第3回自動車アセスメント評価検討会において、2020～2022年の普及率から将来普及率を推測し、当該装置の普及率が6割となる2026年までをリードタイムとして、**2027年**から責任点(レベル4以上)を導入することで承認頂いていた。

<2023年度第3回検討会資料1-2抜粋>

AEBS [交差点] 責任点の設定について

■ AEBS[交差点](対車両(右直)、右左折時の横断歩行者)の評価について

AEBS[交差点]の評価は、「交差点1:対車両(右直)」と「交差点2:右左折時の横断歩行者」を合計した、総得点で評価を行う。

■ AEBS[交差点](交差点1・2)の責任点(=予防安全性能評価でAランクを獲得するための要件)の設定

1. 2022年(1～12月)時点のAEBS[交差点]の普及率は22.0%であることから、導入時に「レベル4以上」の責任点は**設定しない**。
2. 導入時点から引き上げるまでの責任点 ⇒ 装置の搭載有無相当※とする。
※搭載有無相当とは、自動車製作者等がインフレット等により対外的に、対車両右直シナリオ及び右左折時の横断歩行者シナリオに対応するAEBS[交差点]を搭載していることを公表していることとする。
3. 引き上げる基準となる普及率 ⇒ 6割とする。
4. リードタイム
⇒ 2020～2022年の普及率から将来普及率を推測し、当該装置の普及率が6割となる**2027年**の前年までをリードタイムとする。



導入から**2026年までの3年間**は装置の搭載有無相当を責任点とし、**2027年**から他の評価項目と同様に「レベル4以上」を責任点とする。

令和5年度(2023)第3回自動車アセスメント評価検討会 資料1-2

AEBS [交差点] 責任点(案)

国土交通省

Land, Infrastructure, Transport and Tourism

4

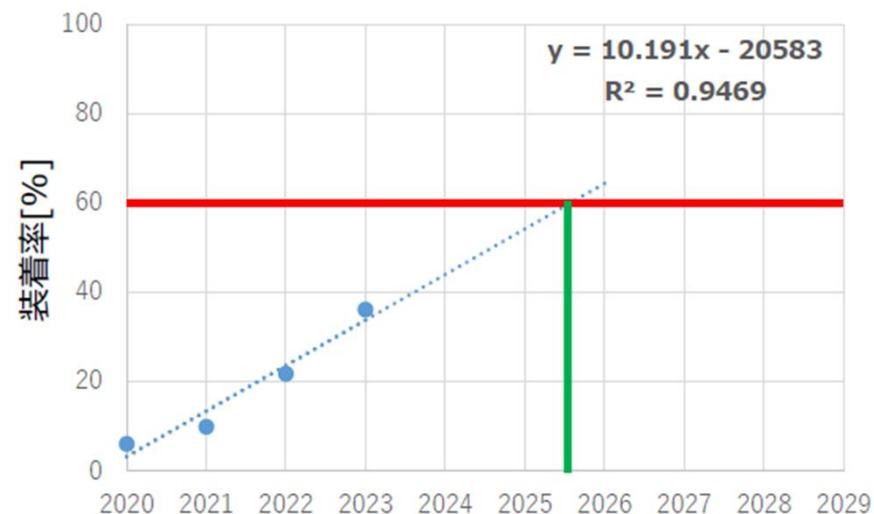
AEBS [交差点] の責任点見直し

見直し(案)

- 2020～2023年の普及率から将来普及率を推測すると、当該装置の普及が当初の推測よりも早く進んでいることが分かった。
- そこで、当初の予定を1年前倒して、**導入から2025年までの2年間**を装置の搭載有無相当を責任点とし、**2026年から他の評価項目と同様に「レベル4以上」を責任点とする。**

乗用車メーカー8社のAEBS [交差点] (交差点1・2) 装着率

	総生産台数	交差点AEBS 搭載台数	装着率
2020	3,468,762	215,969	6.2%
2021	3,361,263	337,788	10.0%
2022	3,179,716	696,998	21.9%
2023	3,668,806	1,329,596	36.2%



Y=60.0とすると
X=2025.61
よって、2026年

【出典】JAMA殿作成資料